

子供ど真ん中の学校

～かがやく海が見える丘より～

令和8年4月29日
長崎市立畝刈小学校
学校だより NO. 15
校長 田中 成年

＜子供ど真ん中教育＞

～第1回 避難訓練～

4月24日に火災を想定した避難訓練を行いました。毎年行っている避難訓練ですが、子供たちに毎回伝えているのは「避難訓練は常に100点でなければいけません。90点でも99点でもダメです。」という言葉です。



訓練でできないことは、本当に起きた時にはできません。常に真剣さを伴い、完璧でなければ、自分の命や周りの人の命を救うことができないからです。



この日の訓練は、残念ながら話し声や笑顔が見られ、100点とはなりませんでした。とても残念でした。



避難訓練で最も大切なことは、「話を聞くこと」です。アナウンスが流れた際に「どこで何が起きている」ということを自分自身で把握し、判断して避難することが大切になるからです。



いつも誰かがそばにいて教えてくれるわけではないので、しっかりと話を聞いて自分で考えて行動する力が問われます。



私からは、「あぜかりっこ」について話をしました。それには3つの姿がありますが、その中の1つに「自分で考え動く子供」というのがあります。自分で動くためには、まずは

人の話を聞くことが大切で、普段から先生や友達の話のしっかりと聞くことができるようになってほしいという話をしました。



教室へ戻った後は、各学級避難訓練の振り返りをしっかりと行い、これからにつなげていました。



最後に、この写真は6年生が避難訓練の後、廊下や階段に落ちた土をきれいに掃き掃除をしているところになります。学校全体のことを考え、進んで動く姿に感動しました。



あぜかりっこの「自ら考え動く子供」の手本となっていました。さすがでした。

畝刈小学校は、子供が主語・子供が主役

「子供と真ん中」の学校

「豊かな心を持ち、自ら考え行動する子供たち」を支えています。